

パートナーシップで進めるまちづくり

# 京まち工房 62

京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



## 特集 私たちが担う 景観・まちづくりのこれから



## 賛助会員 募集

センターの活動の趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、会費は情報誌の発行やまちづくり活動の支援、京町家の保全・再生に向けた取組などの事業に活用させていただきます。



### 会員特典

ニュースレター「京まち工房」送付 (季刊・年4回)  
冊子等の進呈  
当センターホームページへのバナー掲載 (団体会員)

### 年会費

個人1口 5,000円  
団体1口 50,000円

### 賛助会員

相原 満 / 青木 巖 / 青木 義照 / 秋山 智則 / 浅田 毅 / 足立 和康 / 足立 勇一 / 天利 義一 / 荒金 博美 / 安藤 丈智 / 居内 学 / 池澤 喜博 / 生駒 勲 / 石川 日佐美 / 石原 敏彦 / 石原 久子 / 伊藤 真嗣 / 伊藤 正人 / 稲石 勝之 / 井上 信行 / 岩崎 亘男 / 上田 菜穂 / 上原 智子 / 江籠 義貞 / 江田 頼宣 / 江藤 修 / 太田 滋子 / 岡崎 篤行 / 小笠原 惠一 / 岡田 圭司 / 岡田 耕介 / 岡野 哲也 / 岡山 尚義 / 奥田 隆司 / 奥 美里 / 尾崎 学 / 長村 和泉 / 押谷 昌成 / 角村 直夫 / 笠岡 英次 / 桂 豊 / 加藤 昭 / 加藤 正浩 / 門川 信一郎 / 狩野 文博 / 川上 輝夫 / 川口 浩 / 河崎 尚志 / 上林 研二 / 北岡 愛 / 北川 洋一 / 鬼頭 謙 / 来海 賢一 / 木村 繁 / 木村 忠紀 / 木村 真紀子 / 黒川 淳介 / 黒木 省二 / 黒田 睦子 / 桑原 尚史 / 小西 操 / 小西 吉治 / 坂口 景章 / 阪部 孝彦 / 坂本 登 / 坂本 正寿 / 相良 昌世 / 佐竹 和男 / 佐藤 友彦 / 佐藤 七重 / 佐藤 洋 / 佐藤 友一 / 真田 松寿 / 塩崎 満 / 柴崎 孝之 / 柴田 肇 / 島田 和明 / 島村 哲郎 / 清水 博之 / 杉浦 伸一 / 杉田 速男 / 杉本 憲二 / 炭崎 勉 / 関岡 孝緒 / 醍醐 孝典 / 高川 祐子 / 高木 勝英 / 高木 貴子 / 高木 伸人 / 高見 壮一 / 高谷 和代 / 高谷 基彦 / 竹内 実 / 竹村 誠二 / 竹脇 友子 / 多田 英明 / 田中 隆 / 田中 督司 / 田中 良男 / 田中 理世 / 谷口 一朗 / 谷口 功尚 / 谷口 弘恭 / 多見 貞子 / 谷本 真也 / 出口 秀明 / 出崎 恵理 / 寺島 彰 / 寺田 恵子 / 寺田 敏紀 / 寺本 健三 / 富山 育子 / 内藤 郁子 / 中井 健一 / 中川 明彦 / 中川 慶子 / 仲北 好宏 / 中澤 洋雄 / 中島 吾郎 / 中島 弘益 / 中司 さゆり / 中西 朗 / 中村 秋男 / 中村 有希 / 中山 雅永 / 奈須 健一 / 西澤 孝子 / 西澤 亨 / 西崎 淳 / 西村 健 / 能谷 友章 / 野原 将嗣 / 則友 法子 / 則本 和弘 / 齋 黒 健夫 / 橋本 謙治 / 橋本 操 / 畑 正一郎 / 林 建志 / 林 道弘 / 平井 義也 / 平竹 洋子 / 吹上 裕久 / 福島 正俊 / 福林 文孝 / 藤井 俊志 / 藤田 洋史 / 藤村 知則 / 藤本 春治 / 船橋 律夫 / 文山 達昭 / 古川 英志 / 古川 吉則 / 平家 直美 / 堀池 雅彦 / 堀 有輝子 / 本田 徹 / 松井 康史 / 松田 彰 / 松永 昭博 / 松村 互 / 松本 正 / 松本 正 / 三島 時夫 / 溝上 省二 / 水口 善晴 / 宮川 和久 / 宮川 邦博 / 宮村 友子 / 村上 真史 / 元持 清 / 初井 太計司 / 森田 弘之 / 柳原 博實 / 山内 典子 / 山田 宏隆 / 山名 田康孝 / 山本 一博 / 山本 耕治 / 山本 茂 / 湯浅 博央 / 横田 幸子 / 横田 政広 / 吉田 純 / 吉田 真由美 / 吉永 順子 / 淀野 実 / 米谷 朋恵 / 和田 豊志 他 (敬称略)

### 賛助団体

株式会社ゼロ・コーポレーション / ローム株式会社 / 株式会社 地域計画建築研究所 / 都市居住推進研究会 / 一般社団法人 京都府建築士事務所協会 / 株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹 / 大阪ガス株式会社 / 株式会社 フラットエージェンシー / 京都駅ビル開発 株式会社 / NPO法人マンションセンター京都 / NPO法人京滋マンション管理対策協議会 / 平安建材株式会社 / 修徳自治連合会 / 有隣自治連合会 / 株式会社八清 / NPO法人 古材文化の会 / 公益社団法人 京都市観光協会 / ミサワホーム近畿 株式会社 / 一般社団法人 相続相談センター / 立命館大学歴史都市防災センター / 六原学区自治連合会 / 一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会 / 京町家居住支援者会議 / 松ヶ崎学区自治連合会 / 桂坂学区自治連合会 / 株式会社 マーブル / 京都市建築協定連絡協議会 / 『京ぐらし』ネットワーク / 株式会社 都ハウジング 他

## 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127  
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1  
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704  
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

### 開館時間

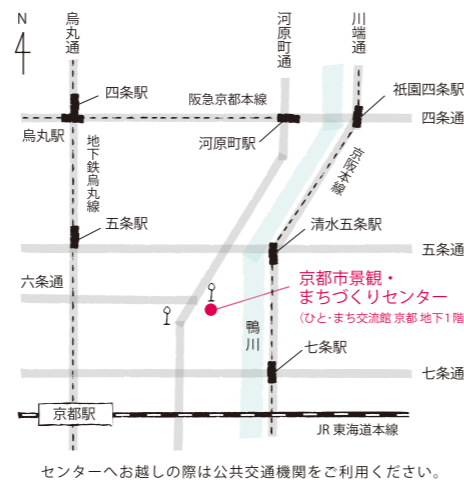
平日・土 9:00 ~ 21:30  
日・祝 9:00 ~ 17:00

### 休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたる時は翌日)  
年末年始 (12月29日 ~ 1月4日)

### 交通系統

バス 市バス 4・17・205号系統「河原町正面」下車  
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分  
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

マチ右衛門 Twitter



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

## 景観・まちづくり大学

まちづくり報告  
オランダアーティストの視点で京都を視る

まちづくりイベント  
京町家の魅力を東京で発信

京町家事例  
深草の小西邸

コラム  
私と京都  
スタッフのつぶやき

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

# 景観・まちづくりシンポジウム

## 私たちが担う

特集

# 景観・まちづくりの

## これから



景観づくりの意義についての基調講演の後、分科会に分かれ、「景観を守るためのルール作り」、「地域資源としての空き家」、「活動の基盤となるコミュニティ」について、参加者と地域での景観・まちづくりの持続的な活動について考えました。

### 基調講演

## コミュニティを育む景観・まちづくりのススメ



門内輝行教授

21世紀社会の最大の課題の一つが「コミュニティのエンパワメント」である。一昔前には、強固な地縁コミュニティがあり、その営みが景観ににじみ出ていた。現代の関係性の希薄なまちにおいては、様々な分野にわたる課題に対するまちづくりと一体的に景観づくりを進めることが、コミュニティを作り直すことにもつながる。美しい景観や快適な環境を創造するには、デザインに関わる多様な主体が協働して、地域特有の資源を再発見し、その要素間の組合せについて継続的にメンテナンスしていく必要がある。このコラボレーションのプロセスから、地域の魅力的な景観が形成されていく。コミュニティの絆は、地域の歴史を過去から現在に引き継ぎ、未来を切り開くための重要な社会関係資産であり、景観・まちづくりはその再生の役割を担っているのである。

平成 25 年 2 月 24 日 (日) 開催

基調講演 門内輝行教授 (京都大学大学院工学研究科建築学専攻)

分科会 A 地域文化を守り伝える景観の創造  
小西宏之氏 (修徳まちづくり委員会相談役)、神戸啓氏 (先斗町まちづくり協議会副会長・事務局長)

分科会 B 空き家から考える地域の未来と景観・まちづくり  
井上えり子氏 (京都女子大学准教授)、増井正哉氏 (奈良女子大学教授)、豊田雅子氏 (NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト代表理事)

分科会 C 地域の運営を拓くコミュニティと景観のこれから  
田中志敬氏 (福井大学助教)、川竹宏昌氏 (ふるさと土佐土居廊中保存会会長)、齋藤信男氏 (西竹の里タウンハウス自治会会長)

主催：(公財)京都市景観・まちづくりセンター、京都市建築協定連絡協議会

### 分科会 A

## 地域文化を守り伝える景観の創造

地域景観づくり協議会の設立で苦労したのは、まちの「らしさ」の議論。それぞれに異なるイメージのすり合わせに悩みました。今我々が良かれと思って取り組んでいることは将来世代にとって正しい方向性なのか。責任の重さを痛感しつつ、目指すべきまちの将来像を具体的な形で、地域で共有していくことが重要ではないでしょうか。  
先斗町 (中京区) 神戸氏

地域景観づくり協議会を作った取組の最前線は今!



多数決ではなく、住民一人一人を大事にした活動の積重ねが地域の景観に繋がると認識しています。まちへの想いを「まちづくり憲章」の様に文書にまとめて蓄積することが重要。地域景観づくり協議会では、100年後も受け入れられるデザインや建築を見据えて、「規制」ではなく、何が良いかを皆で考え「創造」する姿勢で取り組んでいます。  
修徳学区 (下京区) 小西氏

地域景観づくり協議会制度は「運用」の体制づくりが大切。認定後に地域内で発生し続ける事案に住民組織のみで対応し続ける事は難しく、専門的な支援も必要です。制度の縛りが緩い反面、住民による「協議」が最重視される点において、当協議会こそ、まさにコミュニティの力を鍛錬する場と捉えられます。  
門内氏

### 分科会 B

## 空き家から考える地域の未来と景観・まちづくり

地域の視点で、まちづくりの一環として取り組むべき  
空き家に入居する若い世代と一緒に地域活動や行事に取り組みながら、地域力を高めることが一番大切です。景観を守りながら、防災など複合的なまちづくりのなかで空き家の課題に取り組んでいます。  
六原学区\* (東山区) 井上氏  
\*京まち工房61号参照



まちの価値の再評価と発信が大きなカギ  
空き家対策をがんばっている人も組織もありませんが、ラバーズ (まちを好きな人)、リターナーズ (Uターン) & ニューカマーズがネットなどを通じて口コミで繋がり、新しい店や活動・住まい手が増えています。  
きたまち (奈良市) 増井氏

近年社会問題化している「空き家」まちづくりの解決とは?

さいせいひと  
「再生人」が増えて面白い再生が生み出されるように  
「空き家」= 宝の山。NPOでは、空き家以外に「建築・環境・コミュニティ・観光・アート」の5つの柱をつくり、色んな人が関わりやすくしています。尾道市・宅建業協会と「空き家バンク」にも取り組んでいます。  
尾道市 豊田氏

### 分科会 C

## 地域の運営を拓くコミュニティと景観のこれから

敷地を共有し、共有資産である建物の統一感を保ちたい「西竹の里タウンハウス」(京まち工房 55号参照)、個人資産であるが、まちなみに重要な生垣を守りたい「土居廊中」(高知県)。まちの成り立ちや規模など、全く違った背景を持ったこの二地域ですが、景観を守るための活動がそれぞれ行われています。

まちづくり活動の一つとしての景観づくり



### 人集め、どうしていますか?

話したい地域課題があっても、住民が話し合う場に出て来ないと話せません。その場に出てきてもらうための工夫を各地域でされています。共通している方法の一つが子供を介したアプローチ。付き添いで出てきた親と話をする機会になります。子供を介さなくても、コミュニティカフェや宴会など大人が楽しみにできる機会を作り、そのついでに景観のことや地域で話しておきたいことを話すようにされています。

### 活動の広がり

景観を守る取組はまちづくり活動の切り口の一つで、普段からの繋がりや基盤 (コミュニティ) を強化し、防災や福祉など、他の活動も活発にします。例えば防災の活動では災害の恐ろしさと地域の助けの必要性を伝え、地域活動を「重要だ」「参加したい」と思ってもらい、コミュニティの強化をされています。



景観・まちづくり大学は京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。

## 京のまちづくり史セミナー

「なりわいと都市空間形成」をテーマに、個性と魅力にあふれた京都の町並みが地域の経済のあり方と密接に関わっていることを学びました。

第8回 1/19(土)開催

家具のまち 夷川のいま・むかし

協力 夷川会

夷川は「家具のまち」として、多くの人に認識されています。そのまちの成り立ちといま、これからをテーマに、最初は話題提供が行われました。江戸時代の終わりから生活に関わるさまざまな業種が集まり、戦前までは「道具街」としての顔を持ち、関係する職人も住み、ものづくりのまちの顔も持っていたそうです。戦後は、「家具のまち」としてのイメージが強くなりますが、戦後の持ち家志向による影響が強かったそうです。



婚礼家具がその中心で、洋服生活等のライフスタイルの変化は家具自体の変化でもありました。話題提供のあとは、夷川のまちをあるき、「家具」といってもそれぞれが特色を持った店づくりをしている様子を垣間見ました。最近では、家具からインテリア関係のお店も増え、また飲食店も増えてくるなど、まちの様子も変化しつつあります。

その他開催セミナー

第7回 1/9(水) 近代産業遺産とまちづくり

講師 石田潤一郎氏(京都工芸繊維大学教授)

## 京町家再生セミナー

京町家再生の最初の一步としての基本講座です。

第7回 2/8(金)開催

町家の貸し借りの質問にお答えします。京町家の有効活用事例もご紹介します。

講師 西村孝平氏、原田直紀氏(公益社団法人京都府宅建物取引業協会)



まず、京町家を借りる、貸す、売る、買うときに知っておくべきルールについて、クイズ形式で紹介されました。社会常識で答えられそうな問題から、専門家でも間違えてしまう難問まで幅広い問題が出され、参加者が順番に解答していきました。その後、京町家の利活用をテーマに具体的な改修事例が紹介されました。その中で最近の取組として、一軒の京町家を宿にするケースや大型の京町家をシェアハウスとして改修をしたケースについて図面や写真などを織り交ぜながらご紹介いただきました。京町家に手を入れる(改修する)ことにより、価値が高くなる具体的な事例が紹介されました。

週末になると各地に鍾馭さん探しの旅に出るゲストからは、鍾馭さんの由来、作り方、鍾馭さんの分布、各地の鍾馭さんの違いなどたくさんの写真を交えながら、ご紹介いただきました。鍾馭さんは、中国に実在した人物をモデルにしていると言われていて、また、東海から関西にかけて多く分布し、瓦産業の展開とともに広がったそうです。その中で京都の鍾馭さんの特徴は小屋根の上に乗っていることだそうです。

町家所有者・居住者の集い

12/16(日)開催

屋根のちいさな守り神「鍾馭さん」

ゲスト 小沢正樹氏「鍾馭さんを探せ!!」著者



文 = 杉崎和久

## 京町家住まい方ラボ

京町家について、見て、聞いて、体験することで「住まいとしての京町家」への理解を深める、実践的な講座です。

第3回 12/1(土)開催

京都の土壁文化を住まい・まちづくりに活かす - 土壁の魅力を活かした京町家の耐震・防災対策 -

協力 関西木造住文化研究会 (KARTH)

会場 西陣ヒコバエノ家



今回は京町家の耐震・防火対策がテーマでした。会場となった西陣ヒコバエノ家を見学しながら、改修前の様子や改修のポイントの説明を受けました。その後、木と土壁の特性

と魅力、京町家の特徴と耐震の課題、耐震対策のポイント、そして日頃の点検の重要性などについてお話をいただきました。最後には、参加者から耐震対策や改修方法について質疑応答されました。

文 = 立命館大学大学院 川幡瑠里子

## まちづくり実践塾

「京都まちなかの賑わいづくり」をテーマに全5回を開催しました。第3回は江戸時代から残る西陣の京町家の御座敷で、伝統産業の革新による海外展開という最前線のお話でした。

第3回 12/5(水)開催

京まちの魅力=伝統×創造力×???

講師 村山裕三氏(同志社大学大学院教授) 細尾真生氏(株細尾代表取締役社長) 八木隆裕氏(株開化堂副社長)

会場 細尾西陣ショールーム

### 次世代の経営者 人材育成プロジェクト

やる気のある若い職人を集めて革新塾を立ち上げた。パリの展示会では、商品制作までの物語と共にモノの価値をしっかりと提示すれば「購買」に繋がると実感した。ポイントは、文化性とビジネス性のバランス。「ある程度購入可能でかつ本物」であることだろう。まちの賑わいづくりには、新しい伝統産業の魅力を体験するなど滞在型観光に繋げることが一つの方策だ。



村山教授

その他開催セミナー

第4回 1/28(月) 集客スポットからの提案! 京都の賑わいの新展開

### 西陣の町家保全活用の効果

会場の町家は、元々1855年築。本座敷のみオリジナルを残し改修した。二階はショールームで、「京都の町家で一流の家具や織物がみられる」と全世界からご来店頂く。この空間での商談は、我々の商品の文化的背景や環境、精神、技術が評価されてオーダーに繋がる。当町家は経営上、非常に有効な財産。町家の保全活用には経済的に成り立つ維持管理が不可欠だ。



細尾社長

### 海外展開に向けた戦略

茶筒の老舗看板を背負い「気密性」の技術に拘る一方、欧米のライフスタイルに飛び込めば、マーケットは格段に広がる。優れた技術を持つ商品も今の暮らしに使われてこそ、本物の魅力を発揮する。京都の企業が「特化」「洗練」した優れた技術を、現代や海外の需要に合わせて共に切磋琢磨することで、まちの賑わいにも良い波及効果が生まれるだろう。



八木副社長

第5回 2/27(水) まちなかの暮らしを愉しむ - 歴史的都心部再生の方向性 -

文 = 大久保悠子

# オランダアーティストの視点で京都を視る

## 京町家アーティスト・イン・レジデンス2012



**まちづくり**  
アーティストとともに  
地域の魅力を再発見



**京町家**  
暮らしの文化を海外へ  
京町家の活用を促進



**パートナーシップ**  
京都からオランダへ  
国際交流の橋渡し

共催：日本文化センター・アムステルダム

オランダのアーティストが、京都の伝統文化や京町家での生活を体験しながら創作を行い、二国間の文化交流と地域への貢献を目指すこのプログラムは、今年で2回目\*を迎えました。

日本とオランダ双方にとってインスピレーションを受ける機会になりました。

(※ 2011年については「京まち工房」57号参照)

**アーティスト・イン・レジデンスとは**  
芸術制作を行う人を招き、その土地に滞在しながら作品制作を行う事業のこと

### 滞在の様子

展示会・アーティスト  
プレゼンテーション  
会場：京都芸術センター

滞在先の京町家  
オーナーとの交流



和紙づくりの研修

和紙作家 林氏から和紙づくりの指導を受けました。綾部で材料の下ごしらえから体験。

学生との交流  
京都精華大学の  
プリントスタジオにて



茶の湯に親しむ



路地を探し、描く

### 京町家暮らしを体験

暮らしの文化を海外へ発信すると共に、京町家の活用にも繋がることを期待しています。

**振本邸**

普段から「アリサハウスミュージアム」として国際的な文化交流やイベントが行われています。リスさんが、夫婦で滞在しました。



**米田邸**

1階は米田さんが営む工務店の仕事場としても使われている大型の京町家です。トーマスさんとアンネリンデさんが2階をシェアして滞在しました。



アーティストの活動紹介 (1ヶ月半滞在)

京都での体験からこんな作品が完成しました!



**トーマス・シュマル**  
Thomas Schmall



画家。街中を熱心に周り、興味を持った京都の風景を描いた油絵を展示しました。木板上に直接描くことで、木肌が残る、独特の世界観を創り出しています。語学も含めた日本文化の習得に精力的に取り組まれました。



**リス・フェルデニウス**  
Lies Verdenius



版画家、製本家。素材としての和紙や、京町家の持つ視覚的効果、内側から庭への窓越しの眺めといった建築と自然の共生に関心を持っています。京都で暮らした京町家や訪ねた場所で、面白いと思った素材を写し取ったフロッタージュなどを制作しました。



**アンネリンデ・デ・ヨング**  
Annelinde de Jong



シンプルな素材と形態から絵画、コラージュ、空間インスタレーション等多様な表現を通して、ミニマルな世界観を追求しています。襖を少しだけ開けて、格子状に貼られた紙テープ。向こう側は見えるのに、回り道をしなければ到達できない空間自体で、京都で感じたもどかしさや距離感を表現しています。



### 京町家アーティスト・イン・レジデンスを終えて



日々、アーティストとの会話や作品から受けた印象として、京町家が織りなす町並みと電線のコントラストに着目するなど、日常の風景への眼差しが新鮮でした。そして、京町家に暮らしながら目にする建具の扱いや室礼も、日本人の独特なサインとして受け止められていることを知りました。運営にあたり、京都芸術センターにはアート分野のサポートをいただき、京町家所有者とご近所のみなさん、地元のアーティストなど多くの方々が、京町家で芽生えた国際交流を暖かく支えてくださいました。



京あるきin 東京2013

# 京町家の魅力を 東京で発信



オープニング  
セミナー

東京在住の京町家所有者である神澤典子氏をゲストに迎えて、「探す」「改修する」「住む」をテーマにエピソードを交えて和やかに京町家暮らしを語りました。



相談会・展示

京町家に関するセミナーや  
シンポジウムを  
東京で開催しました

シンポジウム



不動産の専門家から  
賃貸や購入のアドバイス



設計士や大工による  
事例紹介や  
改修のアドバイス



改修事例や市民活動のご紹介、  
京町家に関する書籍販売など

## 大集合！住みたい知りたい京町家

「いつかは京町家に住んでみたい。」という東京方面での声にお応えし、暮らし、建築、不動産など、はじめての京町家暮らしに必要な情報をお届けするイベントを開催しました。市民活動団体、職能団体のご協力を得て、京町家の専門家が出向き、セミナーや相談会で具体的なアドバイスをを行いました。



### オープニングセミナー

- 話題提供者 神澤典子氏
- 講師 木村忠紀氏（京都府建築工業協同組合）  
松井薫氏（京町家情報センター）  
末川協氏（京町家作事組）
- コーディネーター 小島富佐江氏（京町家再生研究会）



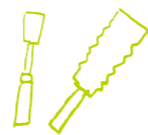
講師・相談に協力いただいた皆さん（敬称略）

京町家再生研究会  
小島富佐江、京極迪宏  
丹羽結花

京町家作事組  
木下龍一、末川協  
内田康博、辻勇治、大下尚平

京町家情報センター  
西村孝平、大前温彦  
松井薫、岩本純一  
原田詔石

京都府建築工業協同組合  
木村忠紀  
京都府建築士会  
志村公夫



### 大集合！住みたい知りたい京町家

- 開催日 平成25年2月11・12日（参加人数 計163名）
- 会場 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学  
外苑キャンパス（東京都港区）
- 共催 京町家再生研究会、京町家情報センター、京町家作事組、  
京町家友の会、京都府建築工業協同組合、京都府建築士会、  
（公財）京都市景観・まちづくりセンター
- 協力 古材文化の会、関西木造住文化研究会、  
町家倶楽部ネットワーク、京都府宅地建物取引業協会

## 技の継承 京町家の再生を通して

京町家を巡る日本の文化と技の継承をテーマにシンポジウムを開催しました。ワールド・モニュメント財団の支援による京町家再生プロジェクトの一環として、京町家への支援の輪がさらに広がるよう企画したものです。会場には歴史的建造物の保存や京都の文化に関心の高い方々が参加され、熱気あふれるシンポジウムとなりました。



大西清右衛門氏  
釜師 大西家十六代当主

千家十職として茶釜の伝統を脈々と受け継がれている大西さんは、鑄物職人が多く住んだ歴史をもつ釜座町に代々お住まいです。釜座町町家（町会所）がワールド・モニュメント財団に修復支援を受けたこともご縁となり、ご出演いただきました。貴重な映像資料を交えて茶釜の創作についてご紹介され、次の世代に技を伝えるには、「和の文化」に目を向けていただくことが大切であるとお話されました。

活気溢れる  
シンポジウム！



### 技の継承 京町家の再生を通して

- 開催日 平成25年2月13日（参加人数 計145名）
- 会場 野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区）
- 共催 （公財）京都市景観・まちづくりセンター  
京町家再生研究会
- 協力 ワールド・モニュメント財団  
野村コンファレンスプラザ日本橋



デービッド・アトキンソン氏  
（株）小西美術工芸社代表取締役会長兼社長

アトキンソンさんは証券会社を経て文化財修復を手掛ける会社の経営に携わっておられます。所有する京町家の改修にあたって心がけたことについて、本質を理解し、形だけを残すのではなく文化を継ぐことが大事であると述べられました。また、イギリスと日本の文化財修復に対する価値観の違いをご説明され、より多くの寄付を受けるためには、日頃から事業の提案や周知活動を積極的にする必要があると助言されました。

- パネリスト 大西清右衛門氏  
（釜師 大西家十六代当主）  
デービッド・アトキンソン氏  
（株）小西美術工芸社代表取締役会長兼社長
- コーディネーター 小島富佐江氏（京町家再生研究会理事長）



京町家の保全・再生事例

# 深草の小西邸



京都市伝統的な木造建築物の保存及び活用に関する条例って？

京町家など伝統的な木造建築物の増築や用途変更をする場合、建築基準法の規定に適合させることが必要ですが、この条例により、景観重要建造物などの景観的、文化的側面からみて特に重要とされる木造建築物に関しては、一定の安全性等が確保できれば、建築基準法の適用を除外できるようになりました。



## 京都市伝統的な木造建築物の保存及び活用に関する条例 初の適用事例！



「小西邸」の外観

お茶販売業の店舗が退去された後、しばらく空き家となっていた本町通沿いの京町家。文久元年(1861年)に建築された築151年になる厨子2階建の母屋のほか、離れ、道具蔵、米蔵があり、旧街道沿いの地域様式を良く残しています。

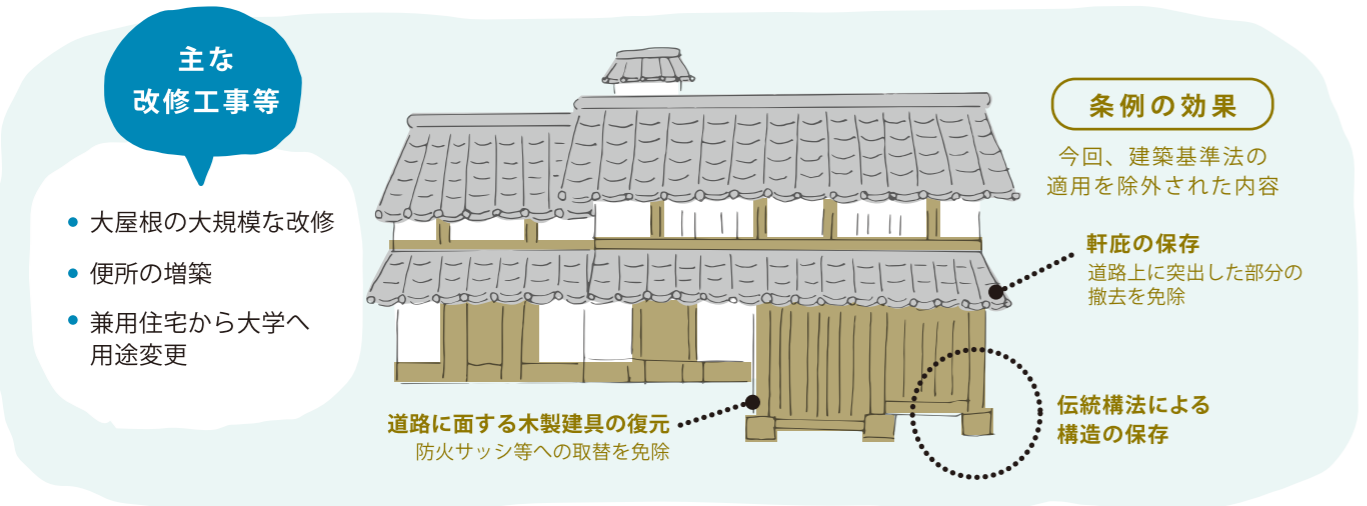
当初は躯体のゆがみや屋根などに傷みもありましたが、今回の改修にあたり「京都市伝統的な木造建築物の保存及び活用に関する条例」の初の適用を受け、京町家の風情を残したまま、美しく息を吹き返しました。

**再生への道のり** 先祖から受け継がれた思い出の詰まったこの家を、なんとか残して再生したいという小西氏の強い思いもあり、一昨年から、地元の深草支所、龍谷大学、(社)京都府不動産コンサルティング協会等の協力も得て、活用と改修方法の検討が始まりました。京町家まちづくりファンドでの支援が決まった後、京都市の景観重要建造物に指定されたことで条例適用が可能になり、改修工事が進められました。平成25年春から龍谷大学「深草町家キャンパス」として、学生や地域の方々とともに新たな一歩を踏み出します。

- 平成24年3月 | 京都市民の公募による「京都を彩る建物や庭園」に選定
- 8月 | 京町家まちづくりファンド対象物件に選定
- 11月 | 景観重要建造物に指定

改修設計  
住まいの工房  
(松井薫氏)

今後この条例が上手に活用され、より多くの京町家が残るきっかけとなることを願っています。



京町家まちづくりファンド

# 私と京都

— イメージとしての京都 —



京都女子大学准教授  
井上 えり子



京都に住んで18年になる。その前は長く関東に住んでいた。関東では毎年秋になると、JR東海の「そうだ京都、行こう」という有名なキャッチコピーのコマーシャルが繰り返し流れている。また、テレビの番組や雑誌で争うかのように京都特集が組まれ、何がなんでも京都に行かなくてはいけないような気持ちにさせられるのである。そのようなテレビや雑誌で描かれる京都は、古いお寺の静寂な空間に加え、町家が美しく並ぶ景観や芸舞妓がはんなりと歩く姿などである。だから京都のことを、テレビを通してしか知らない人間は、京都にはまだまだ古く美しい町並みが残っていると信じている。しかしながら実際に京都に来てみると、そんなことは幻想であることを思い知る。幹線道路沿いのビル群、路地をつぶしてミニ開発した戸建て住宅群…それが現実の京都の姿である。だから他の土地から来た人間は、イメージの京都と現実の京都との落差に衝撃を受ける。多くの日本人が京都のイメージとして思い描くのは景観だけではない。町家の中に一步入れば、そこには通り庭や細長くつながった続き間があると信じられており、そこでは伝統的な生活が伝統的なやり方でおこなわれていると思われる。私も町家を自宅にしているが、そういう番組等の影響か、我が家を見学に来る客は、通り庭に井戸があるのを見て「洗濯とか大変じゃないですか?」とか「冬の

炊事は大変でしょう?」とほとんど例外なく聞くので驚く。その度に私は「洗濯はもちろん洗濯機でやっています」とか「水道が通っていて、お湯も出ます」とか答えている。我が家のように夫婦共働きの場合、やはりタイマー付きの電化製品を使ったほうが便利である。それが実像の町家の住人である。ただし言い方を変えれば、我が家のようにほとんど昔のままの間取り・内装であっても、設備を新しくすれば利便性において何ら問題ないとも言える。だから、通り沿いの外観のみが町家で、内部はLDK型の住宅が増えていくと心配になるのである。そのうち、博物館的な町家を除くと、伝統的な間取りのままでも人々が生活する町家はなくなってしまうのではないかと。伝統的な間取りは不便であると決めつけていいものかと。10年前であれば、町家を改装するとき、電話やインターネットの配線は壁や天井をつたわせていたが、今や無線が主流である。また電化製品は小型化や性能の向上が進んで、電化製品の技術革新が確実に古い住宅ストックの欠点を補う時代に入ってきている。町家は京都にとって、重要な住宅ストックである。景観政策で外観をまもるだけでなく、内部空間の利便性向上を、間取りの改変以外の手法で模索する努力をおこなうべきであろう。イメージだけの京都と言われたいために。

## スタッフのつぶやき



スタッフ T.Y

文化は学ぶのではなく体で覚えるもの。物事は一から十まで説明をすることをよしとしないところが京都人はいけずだと言われる所以の一つかな、と思ったりする。窓口でこれのどこが京町家でないのかと聞かれることがある。うまく説明できず上司に相談したところ、「京町家でない説明ではなく、京町家はこれだと伝えなさい。」

なるほど、分かりやすく物事を発信するということは大事だが、相手が自ら感じる部分を奪っては京町家の文化は伝わらないと反省した。感じるからこそ生き方として身に付き、本物として継承されていくのだろうと思う。私もいけずな人になりたいと、ちょっとだけ思う今日この頃。(冗談です)